

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	明解現代文B（三省堂）／高等学校 新編古典B〔古文編〕（東京書籍）／明解現代文B〔改訂版〕 学習課題ノート（三省堂）／高等学校〔新編古典B〕古文編 学習課題ノート（東京書籍）／新国語便覧（第一学習社）／プラクティカル日本語文章表現編（おうふう）／常用漢字ダブルクリア三訂版（尚文出版）／各種辞書					
担当教員	松田 信彦					
到達目標						
近現代の様々な文章および、古典を読む能力を高めるとともに、ものの見方、考え方を深め、進んで表現する態度を育てる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 文学作品の読解をととして、多様な日本語文法や表現方法を理解することができる。	作品に使用される語句の意味と働きを正しく理解した上で、それらを説明することができ、自らに応用することができる。		作品に使用される語句の意味を理解し、文脈において、それらの効果、働きを理解することができる。		作品に使用される語句の知識が不十分であり、作品の読解が深まらず、内容を説明することができない。	
評価項目2 文学作品の読解をととして、多様なものの見方や考え方を理解することができる。	作品の読解を通して、作者の立場や登場人物の立場を理解し、自らの視点から批評することができる。		作品の読解をととして、作者の観点や登場人物の視点を理解し、文章を多角的にとらえることができる。		作品の読解を通して、作者の視点や立場を理解することができず、多様な考え方に対する把握が不十分である。	
評価項目3 文学作品の読解をととして、日本語、日本文化に対する高い関心を持つことができる。	作品を通して、日本独自の文字や語句、表現などを理解し、異文化に対する日本文化の特徴を説明することができる。		作品を通して、日本独自の文字や語句、表現などについて関心を持ち、異文化との相異点を理解することができる。		作品を通して、日本独自の文字や語句、表現についての知識が不十分であり、異文化との相異点が明示できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1年次の「国語Ⅰ」で身に付けた、現代文・古文・漢文・言語の既修事項を踏まえて、深い教養を身につけ、よりよい社会生活を送るために、国語の総合力をのばす科目である。3年次の「国語Ⅲ」、4年次の「日本語表現」へと発展する。					
授業の進め方・方法	本年度は、現代文と古典とに教科書を分けて用いる。これにより現代文と古典とによる相互比較から、それぞれの特徴を浮き彫りにし、作品理解をさらに深めていく。また文章作法の習得にも力を入れ、読解力に加えて、語彙力、表現力の習得を目指す。そのために『プラクティカル日本語文章表現編』、『常用漢字ダブルクリア』などのテキストを用い、特に後者については定期的に小テストを行うことで知識の定着を試みる。なお、この科目は前期・後期ともに中間試験を実施する。					
注意点	教材の中の様々な問題について自分の意見を持ち、的確に表現できるようにする。常用漢字、重要語句を確実に修得する。また、授業に積極的にに関わり、教師からの質問にも進んで答えるよう心がける。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	小説：『山月記』		李徴が虎に変身するまでのプロセスを正確に把握する。哀惨に訴える悩みの内容の変化を理解し、それに対する哀惨の感想を対置させながら、李徴が真実に気づいていく過程を整理できる。漢字・語句を正しく読み書きし、その意味を理解し、利用することができる。	
		2週	小説：『山月記』		李徴が虎に変身するまでのプロセスを正確に把握する。哀惨に訴える悩みの内容の変化を理解し、それに対する哀惨の感想を対置させながら、李徴が真実に気づいていく過程を整理できる。漢字・語句を正しく読み書きし、その意味を理解し、利用することができる。	
		3週	小説：『山月記』		李徴が虎に変身するまでのプロセスを正確に把握する。哀惨に訴える悩みの内容の変化を理解し、それに対する哀惨の感想を対置させながら、李徴が真実に気づいていく過程を整理できる。漢字・語句を正しく読み書きし、その意味を理解し、利用することができる。	
		4週	小説：『山月記』		李徴が虎に変身するまでのプロセスを正確に把握する。哀惨に訴える悩みの内容の変化を理解し、それに対する哀惨の感想を対置させながら、李徴が真実に気づいていく過程を整理できる。漢字・語句を正しく読み書きし、その意味を理解し、利用することができる。	
		5週	小説：『山月記』		李徴が虎に変身するまでのプロセスを正確に把握する。哀惨に訴える悩みの内容の変化を理解し、それに対する哀惨の感想を対置させながら、李徴が真実に気づいていく過程を整理できる。漢字・語句を正しく読み書きし、その意味を理解し、利用することができる。	
		6週	プラクティカル日本語：第Ⅰ部6章、7章		理論的文章作成の基本を理解し、特に句読点の役割が理解できる。	
		7週	プラクティカル日本語：第Ⅰ部6章、7章		理論的文章作成の基本を理解し、特に接続の表現に留意しながら、文と文を上手につなげる技術を修得する。	
		8週	試験答案の返却・解説		試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。あわせて、それまでの授業項目について達成度を確認する。	

2ndQ	9週	評論：「コンコルドの誤り」	「コンコルドの誤り」が何なのかを理解し、説明ができる。誤りの根拠を正確に読み取りながら、人間の思考がこの誤りを犯しがちである理由について説明ができる。	
	10週	評論：「コンコルドの誤り」	「コンコルドの誤り」が何なのかを理解し、説明ができる。誤りの根拠を正確に読み取りながら、人間の思考がこの誤りを犯しがちである理由について説明ができる。	
	11週	評論：「コンコルドの誤り」	「コンコルドの誤り」が何なのかを理解し、説明ができる。誤りの根拠を正確に読み取りながら、人間の思考がこの誤りを犯しがちである理由について説明ができる。	
	12週	随想：「反対語を意識して考えよう」	ものを見るときや文章を書くときに、反対語を意識することが何故大切なのか説明できる。	
	13週	随想：「反対語を意識して考えよう」	ものを見るときや文章を書くときに、反対語を意識することが何故大切なのか説明できる。	
	14週	随想：「反対語を意識して考えよう」	ものを見るときや文章を書くときに、反対語を意識することが何故大切なのか説明できる。	
	15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。 あわせて、それまでの授業項目について達成度を確認する。	
	16週			
後期	3rdQ	1週	物語：『竹取物語』「天の羽衣」	物語という古典分野を理解し、文学史における作り物語の価値・位置づけを説明できる。 □ 音読をとおして、物語の世界を味わうことができる。
		2週	物語：『竹取物語』「天の羽衣」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		3週	物語：『竹取物語』「天の羽衣」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		4週	物語：『竹取物語』「天の羽衣」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		5週	随筆：『徒然草』「九月二十日のころ」	随筆という古典分野を理解し、文学史における三大随筆の価値・位置づけを説明できる。 □ 音読をとおして、作品の世界を味わうことができる。
		6週	随筆：『徒然草』「九月二十日のころ」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		7週	随筆：『徒然草』「九月二十日のころ」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		8週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。 あわせて、それまでの授業項目について達成度を確認する。
	4thQ	9週	日記：『更級日記』「物語」	日記という古典分野を理解し、文学史における価値・位置づけを説明できる。 □ 音読をとおして、作品の世界を味わうことができる。
		10週	日記：『更級日記』「物語」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		11週	日記：『更級日記』「物語」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		12週	日記：『更級日記』「物語」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		13週	説話：『十訓抄』「大江山の歌」	説話という古典分野を理解し、文学史における価値・位置づけを説明できる。 □ 音読をとおして、作品の世界を味わうことができる。
		14週	説話：『十訓抄』「大江山の歌」	□ 古語及び、助動詞の用法等に注意して、全文の意味を正しく読み解くことができる。 □ 作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を説明できる。
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。 あわせて、それまでの授業項目について達成度を確認する。
		16週		
評価割合				
	試験	提出物	小テスト	合計

綜合評價割合	50	15	35	0	100
基礎的能力	50	15	35	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0